



～自分で考え 友達と一緒に活動し 振り返りのできる子～

学校だより 7月

令和5年6月30日

荒川区立

峡田小学校

校長 津田 利枝

がんばっている子どもたち～学力調査の結果より～

校長 津田 利枝

4月に実施した「荒川区学力向上を図るための調査」の結果が届きました。(1年生は12月に実施します。)前年度までの学習の定着状況をみる調査です。峡田小の平均正答率と区の平均正答率との差を示しました。(荒川区は全国平均をすべて上回っています。△は区平均を上回る ▼は区平均を下回る)

	国語		算数	
	前回 (R4)	今回 (R5)	前回 (R4)	今回 (R5)
2年	△3.9	△6.8	△6.5	△3.6
3年	▼1.0	△5.8	△2.1	△4.7
4年	▼1.0	▼4.1	△0.7	▼2.7
5年	△4.7	▼1.3	△7.2	△1.5
6年	△2.6	△3.9	△2.9	△4.8

<記述> 回答形式は「選択」「短答」「記述」の3つ

	5年	6年
国語	△9.5	△16.4
算数	△5.1	△4.3

<思考・判断・表現>

	5年	6年
国語	△1.5	△8.0
算数	△1.2	△5.7

<主体的に学習に取り組む態度>

	5年	6年
国語	△9.5	△15.2
算数	△1.6	△5.1

<活用>いわゆる応用問題

	5年	6年
国語	△1.3	△9.3
算数	△3.1	△2.9

各種カテゴリー別で結果を見たとき、本校が特に着目しているのは、左記の<記述><思考・判断・表現><主体的学習に取り組む態度><活用>の4項目です。これまで、記述問題を苦手とする状況がありましたが、昨年につき、良好な結果が出ています。また、観点別における「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」、「活用」問題においても、同様に上昇傾向が続いています。これらの要因の一つは読書活動です。年々、読書量が増えていること、もう一つは、本校が重視している非認知能力(あきらめない、目標に向かってがんばる、最後までやり遂げる、挑戦しようとする、自己肯定感など)の育成による学習意欲の向上、この二つが学力により影響を与えていると分析しています。

昨年9月より、全員一律の宿題を廃止し、各自が決めた(担任と相談して)家庭学習に取り

組む形に変更しました。半年間の取組の結果、この変更によって「学力が下がった」ということはないと考えています。しかし、「家庭学習の習慣化」は引き続きの課題です。質、量ともにより家庭学習が向上していくよう、ご家庭と連携していきたいと思っております。また、個別指導日の指導を見直し、弱いところを強化していきます。担任から連絡をさせていただくことがありますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。学期末を迎えます。楽しい夏休みを迎えられるよう、よりよいまとめを行ってまいります。